

平成30年度 第1回 SGH連絡協議会・連絡会

第一部 報告

多文化共生空間の創造・維持・発展

早稲田大学高等学院

早稲田大学高等学院

- 約40名×12クラス 男子校
- 第二外国語（ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語）
- 大学との接続

外国語	コミュニケーション英語I (a)	2	コミュニケーション英語II (a)	2	コミュニケーション英語III (a)	1
	コミュニケーション英語I (b)	1	コミュニケーション英語II (b)	1	コミュニケーション英語III (b)	2
	英語表現I	2	英語表現II (前)	2	英語表現II (後)	2
	ドイツ語I・フランス語I・ロシア語I・中国語I	3※	ドイツ語II・フランス語II・ロシア語II・中国語II	3※	ドイツ語III・フランス語III・ロシア語III・中国語III	2※

教科	1年次		2年次		3年次	
	科目	単位	科目	単位	科目	単位
国語	国語総合 現代文	2	現代文B (前)	2	現代文B (後)	2
	国語総合 古典	2	古典B (前)	2	古典B (後)	1
地理歴史	世界史A	2				
公民	倫理	2			政治・経済	2
数学	数学I	3	数学II (a)	2		

家庭	家庭基礎	2				
情報	社会と情報 (前)	1	社会と情報 (後)	1		
芸術	音楽I・美術I・書道I	2※				
選択科目			文理コース別選択	8	文理コース別選択	11
					自由選択科目2*	2※
					大学準備講座2*	2※
総合的な学習の時間			総合的な学習の時間	1	総合的な学習の時間	1
ホームルーム	ホームルーム	1	ホームルーム	1	ホームルーム	1
合計		34		34		32

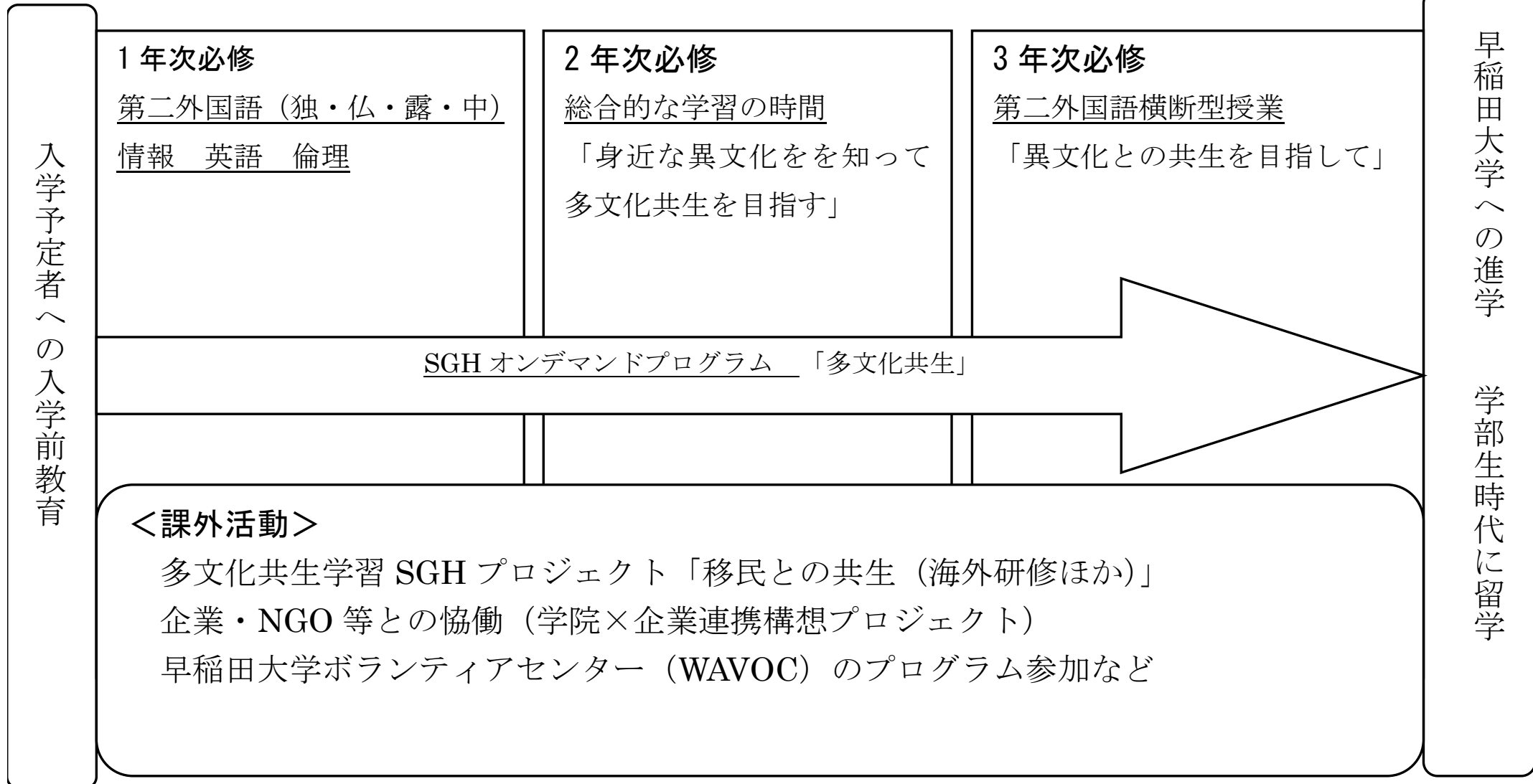
学校 設定科目

高3 選択授業

大学準備講座	定員
論文のための文章講座	25
プレゼンテーション・セミナー	25
現代世界の諸問題	25
現代史特論	25
法学特論	30
経済学・政治学特論	28
ビジネス入門	25
理工線形代数	25
基礎数学	20
理工学特論	25
現代の生命科学	25
数理物理	30
基礎物理	10
化学1	25
エネルギー・環境概論	25
建築素描	25
TOEFL-TOEIC演習	90
English Conversation	25
基礎英語	20
グローバルに活躍するためのフランス語	25
ドイツ語演習	25
中国語演習	25
経済系の数学リテラシー	25

自由選択科目	定員
文学！？	25
原典精読に基づく仏教概論	25
「古代文明」と考古学-インカ帝国研究入門	25
災禍と再生の都市～江戸、ロンドン、東京～	25
国際社会学	25
思想研究	20
解析数論入門	25
「数」の基礎	20
生命科学・課題研究	20
バイオサイエンス特講	25
理工系のためのプログラミング入門	25
化学2	25
応用地球科学	25
バスケットボール	24
サッカー	24
トレーニング理論及び実技	20
音楽	20
美術・工芸	20
書—古典臨書から自己表現の追求へ—	22
食品科学	24
Advanced Reading and Writing	20
初心者のためのフランス語・フランス文化	20
ロシア語日常会話	20
ドイツ語会話	20
中国語会話	20
統計学入門	25

課題研究【多文化共生空間の創造・維持・発展】の道筋



課題発見

価値判断

因果関係



1学期 個人プレゼン

比較を通じて、自分たちの特徴を発見する

自分たちに関するデータ（学院生生活意識基本調査）を作成し、他の高校生のデータと「比較」しながら、「自分たちの特徴」を見つける。
(ex.勉強面・生活面・価値観・将来像など)

その特徴の「意味」を考える

なぜその特徴に注目するのか。なぜその特徴に関心を抱いたのか。1分間程度でスピーチ。

その特徴の「原因」を考える

仮説を立てたり、クロス集計などを行って自分たちを分析することで、相関や因果関係を探る。

2学期 グループプレゼン

克服すべき社会的課題を発見する
(私たちはどのような問題に直面しているのか)

様々な人の立場に関するデータ（白書・RESAS・新聞記事・大学データベースなど）を用いて、「社会として克服すべき課題」を見つける。
(ex.過疎過密化・障がいの有無・性差・アレルギー・国籍・世代など)

課題の本質を見極める
(なぜこの問題に取り組むのか)

当事者・非当事者の立場を超えて、社会的課題として共有できるように、その問題の意味を考える。

課題の原因を探る
(なぜこのような問題が生じるのか)

「一人ひとりの意識」などに帰着させず、「構造的な要因」や「制度」に注目して、問題が生じてしまう原因を探る。

課題を克服するアイデアを考える
(どうすれば問題を解決できるか)

「ソーシャルビジネス」や「政策」など、幅広い手法で課題解決の方法を探る。

3学期 小論文作成

1・2学期の思考プロセスを意識して、個人で小論文を執筆する。

与えられた課題（大学・学部の小論文入試問題などを援用）に対して、1200字程度で小論文を執筆する。
(ex.都道府県別大学進学率・2050年の地域別高齢化率など)

高3年次 論文作成

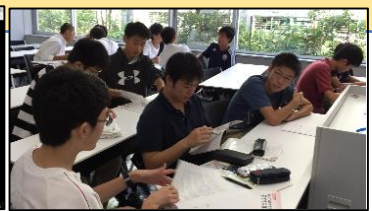
自分が設定した課題について、論文を執筆する。

自分が設定したテーマで、1万2000字程度で論文を執筆する。1人の教員が10名の生徒を担当する。

GOAL
生徒一人ひとりが、それぞれ自分自身のテーマを持って、早稲田大学の13学部へ進学。

- ・課題発見・課題解決の思考プロセス
- ・仮説実証の手続き
- ・論文の意義と書き方（文献や引用方法）
- ・様々なデータベースへのアクセス方法
- ・エクセルなどを用いたデータの加工方法
- ・合理的なグループワーク
- ・効果的なプレゼンテーション方法

課題解決



2018年度高2総合第1回授業アンケート「高校生の生活と意識に関する調査」

このアンケートは、学院生の皆さんが日ごろどのような生活をして、どのようなことを考えているかを尋ね、総合的な学習の時間を通じて、実際のデータとするものです。このデータは皆さんに記入していただいたあと、すぐにコンピュータに入れ、乱数を振り、結果はパーセントで表示して、誰が何を答えたかがほかの人に知られるようなことは決してありません。知識を問う項目もありますが、テストではありませんので、答えられれば、ありのまま、思うままを教えてください。回答はすべてマークシートにマークしてください。

国立青少年教育振興機構
「高校生の生活と意識に関する調査～日本・米国・中国・韓国の比較」
を用いて、国内調査

問1 あなたの性別を教えてください。

1. 男 2. 女

問2 あなたが在学している高校は次のどれですか。(○は1つ)

1. 普通科高校 2. 職業科高校

問3 あなたの学年を教えてください。(○は1つ)

1. 高校1年生 2. 高校2年生 3. 高校3年生



問1～3は回答しないでください

問4 あなたは、この1年間、次のことをどのくらいしたことがありますか。aからhまでのそれぞれについて、あてはまるものを1つだけ選んでマークしてください。

		何度もある	少しある	
1	a. キャンプ、山登りやハイキングなどアウトドア活動をしたこと	1	2	
2	b. 野菜や果実の栽培や収穫などの農作業を体験したこと	1	2	
3	c. 虫を捕ったりペットを育てたりしたこと	1	2	
4	d. 道路や公園などに捨てられているゴミを拾ったりしたこと	1	2	
5	e. 弱い者いじめやケンカをやめさせたり、注意したこと	1	2	
6	f. 体の不自由な人、お年寄りなどの手助けをしたこと	1	2	
7	g. 家族や親族のお墓参りをしたこと	1	2	3
8	h. 家事を手伝ったこと	1	2	3

問5 あなた自身のことをお聞きします。次のaからnまでのそれぞれについて、あてはまるものを1つだけ選んでマークしてください。

		とてもそう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
9	a. 自分には友だちがたくさんいる	1	2	3	4
10	b. 自分は、体力には自信がある	1	2	3	4
11	c. 自分は、勉強が得意なほうだ	1	2	3	4

MS Pゴシック 11

条件付き書式
テーブルとして書式設定
セルのスタイル

数値

セル 編集

クリップボード フォント 配置 スタイル

N3

A B C D E F G H I J K L M

「大学院生の生活と意識に関する調査」集計結果 (回答総数 479, 単位: パーセント)

集計データと
アンケートデータを提供

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
	回答番号										
1	設問1	28.0	30.3	41.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2	設問2	13.2	40.5	32.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3	設問3	9.6	44.5	45.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4	設問4	46.6	31.7	21.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5	設問5	53.7	38.4	7.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6	設問6	20.7	52.0	23.2	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
7	設問7	13.2	33.0	34.9	18.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
8	設問8	6.7	36.3	43.2	13.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
9	設問9	15.0	57.4	22.3	5.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10	設問10	20.3	41.3	31.1	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
11	設問11	27.3	46.3	21.5	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
12	設問12	24.0	44.3	25.1	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
13	設問13	3.5	15.0	50.7	30.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
14	設問14	9.0	25.7	52.4	12.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
15	設問15	16.5	47.8	29.6	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
16	設問16	20.9	53.4	23.0	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
17	設問17	25.3	58.0	14.0	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
18	設問18	14.2	21.1	44.1	20.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
19	設問19	14.6	35.7	41.5	8.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20	設問20	37.8	52.2	8.8	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
21	設問21	1	30.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	69.5
22	設問22	2	4.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	95.6
23	設問23	3	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	96.0
24	設問24	4	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	98.7
25	設問25	5	55.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	44.3
26	設問26	6	19.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	80.2
27	設問27	7	43.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	56.2
28	設問28	8	31.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	68.7
29	設問29	9	5.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	94.8

MS Pゴシック 11

折り返して全体を表示する
セルを結合して中央揃え

標準

条件付き書式

クリップボード フォント 配置 数値

A1 整理番号

A B C D E F G H I J K L M N O

	整理番号	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
1	1	3	2	3	3	3	2	3	1	2	3	4	2	3	2
2	2	3	3	3	3	3	2	3	2	2	2	4	3	3	2
3	3	3	3	1	3	3	2	3	1	3	3	1	2	3	1
4	4	3	3	3	2	3	3	2	1	2	2	3	3	3	2
5	5	3	3	1	2	3	2	2	2	1	1	1	1	3	2
6	6	1	3	2	2	3	2	1	1	2	2	3	3	2	2
7	7	2	1	3	2	3	2	1	1	3	4	3	2	2	1
8	8	2	2	2	2	3	2	1	1	3	2	3	3	3	1
9	9	2	2	1	2	2	2	2	1	2	2	3	2	3	3
10	10	2	3	2	2	3	3	2	1	3	4	2	3	1	2
11	11	2	3	1	3	3	3	2	3	2	3	3	3	2	2
12	12	1	2	2	3	3	3	2	2	4	3	3	2	2	3
13	13	2	1	1	1	2	2	1	2	3	2	2	1	2	1
14	14	1	2	3	2	3	2	2	1	2	3	2	2	1	2
15	15	3	3	3	3	3	3	3	2	3	4	2	3	2	1
16	16	1	2	1	1	2	2	3	2	1	1	3	2	3	3
17	17	3	3	3	3	3	3	1	2	2	4	2	2	3	3
18	18	1	2	2	2	1	2	1	1	2	2	2	2	1	2
19	19	2	2	1	3	3	3	1	3	1	1	3	3	4	2
20	20	3	3	3	3	3	3	1	2	2	3	3	2	2	2
21	21	1	2	1	2	3	2	1	2	2	3	3	3	3	2
22	22	3	3	3	3	3	3	3	2	2	3	2	2	3	3
23	23	3	3	2	2	3	3	1	1	2	3	3	2	1	1
24	24	2	2	1	3	2	3	1	1	2	2	2	2	3	2
25	25	3	3	3	3	3	2	2	3	4	4	3	3	3	3
26	26	2	3	2	1	2	2	2	1	2	3	2	2	2	2
27	27	3	2	3	2	3	1	2	3	2	4	1	2	3	1
28	28	1	3	2	3	2	3	3	2	1	1	3	2	3	2
29	29	2	3	3	3	3	3	2	1	3	3	3	2	1	1
30	30	2	3	2	3	3	3	2	2	2	3	3	3	2	2
31	31	2	2	3	3	3	3	2	2	2	4	3	2	2	2
32	32	1	1	2	3	2	1	1	1	4	3	1	3	2	1
33	33	2	2	1	2	2	3	2	1	1	2	4	2	1	1
34	34	3	3	3	2	3	3	1	2	1	1	3	1	2	2
35	35	2	3	2	3	3	3	1	2	2	3	3	3	2	2

担当教員名:後藤 潤平 開講期間:2018/04/01 00:00~2019/03/31 23:59 総履修者数:23
全選択 全解除 シラバス参照

表示順更新

- 5月7日の1分間プレゼンについて【リマインド】
- 悪いVPO事例
- Excel2016の基本について
- Excel2016を用いて集計データをつくる (公民科 後藤作成)
- 【参考資料】高校生の生活と意識に関する調査報告書-日本・米国・中国
- 2018総合アンケート集計結果(修正版)
- 【5月7日】1学期1分間プレゼン提出フォルダ
- EXCELを使った簡単な統計処理の紹介
- 5月7日 宿題「Youtubeを見てくる課題」
- クロス集計について(動画)
- 【6月4日】仮ファイル提出フォルダ
- 1学期アンケート設問
- 6月11日VPO提出フォルダ
- 6月18日フォルダ2回目
 - 説明
 - 6月18日用 2回目

【参考資料】高校生の生活と意識に関する調査報告書-日本・米国・中国・韓国の比較

資料名:【参考資料】高校生の生活と意識に関する調査報告書-日本・米国・中国・韓国の比較
 掲載者名:後藤 潤平
 説明:
 高校生の生活と意識に関する調査報告書-日本・米国・中国・韓国の比較-
 発行日 平成27年8月
 発行施設 国立青少年教育振興機構
 この調査は、日本、米国、中国、韓国の4か国の高校生を対象として、体験活動、インターネットの活用、友達や親戚関係、信頼感、人生の目標、社会や国への考え方、自己認識(自己肯定感など)についての意識を調査したものである。
[高校生の生活と意識に関する調査報告書-日本・米国・中国・韓国の比較](#)
 参照期間:2018/04/01 00:00~2019/03/31 23:59
 バックナンバー期間:2018/04/01 00:00~2019/03/31 23:59

内容編集 参照履歴 参照履歴CSVダウンロード

調査研究報告書検索 青少年教育に関する調査研究報告書

トップページ > 調査研究報告書検索 > 高校生の生活と意識に関する調査報告書-日本・米国・中国・韓国

高校生の生活と意識に関する調査報告書-日本・米国・中国・韓国の比較

発行日	平成27年8月
発行施設	国立青少年教育振興機構

この調査は、日本、米国、中国、韓国の4か国の高校生を対象として、体験活動、インターネットの活用、友達や親戚関係、信頼感、人生の目標、社会や国への考え方、自己認識(自己肯定感など)についての意識を調査したものである。

- 概要
- 表紙
- 目次
- 調査の概要
- 1 体験活動
- 2 インターネットの利用や意識
- 3 勉強について
- 4 友達に求めていること
- 5 親子関係
- 6 信頼感
- 7 人生目標
- 8 社会や国への意識
- 9 自分について(自分はダメな人間だと思ふことがある など)
- 10 生活などへの満足感
- 11 体験活動と自己肯定感の関係(自尊感情)
- 12 経年比較にみる高校生の生活と意識
- 4か国高校生の比較研究調査を読み解く
国立青少年教育振興機構 青少年教育研究センター長 明石 要一

資料提供と提出管理

① 集計結果

	日本		米国		中国		韓国		学院生
	男	女	男	女	男	女	男	女	
1. とてもそう思う	23.6	27.5	10.0	18.3	13.3	13.1	4.9	5.0	27.3
2. まあそう思う	44.3	49.8	26.9	34.8	36.6	48.2	29.1	31.1	46.3
3. あまりそう思わない	25.5	20.2	28.1	23.6	34.9	32.1	41.7	43.2	21.5
4. 全くそう思わない	6.5	2.5	33.6	22.0	15.0	6.3	24.3	20.8	
無回答	0.1	0.0	1.4	1.3	0.2	0.3	0.0	0.0	4.8
総数(人)	924	921	773	787	1089	1418	832	1001	479

引用元・国立青少年教育振興機構HP http://www.niye.go.jp/kenkyu_houkoku/contents/detail/i/98/ 情報取得日・2018/5/1

② 読み取れること

日本の高校生は、アメリカ、中国、韓国と比べセルフエスティーム

(自己肯定感)が低いことがわかる。

また、差は大きくないものの、男子の方が女子よりもセルフエスティームが高い

総合学習(2年)総合4(2) 講義一覧

担当教員名:後藤 潤平 開講期間:2018/04/01 00:00~2019/03/31 23:59 総履修者数:23

[全選択](#) [全解除](#) [シラバス参照](#)

[表示順更新](#)

表示順

お知らせ

[5月7日の1分間プレゼンについて【リマインド】](#)

悪いワポ例

Excel2016の基本について

Excel2016を用いて集計データをつくる (公民科 後藤作成)

【参考資料】高校生の生活と意識に関する調査報告書-日本・米国・中国・韓国

2018総合アンケート集計結果(修正版)

5月7日1学期1分間プレゼン提出フォルダ

EXCELを使った簡単な統計処理の紹介

5月7日 宿題「Youtubeを見てくる課題」

クロス集計について(動画)

6月4日仮ファイル提出フォルダ

1学期アンケート設問

6月11日ワポ提出フォルダ

6月18日フォルダ2回目

説明

[6月18日用 2回目](#)

クロス集計について (動画)

https://cnavi.w

Waseda-net Course No

資料コンテンツ詳細

クロス集計

資料名:クロス集計
掲載者名:武沢
説明:
表計算ソフトEXCELを用いた
参照期間:2018
バックナンバー

Copyright © Wase

合計 / 設問	1	2	3	総計
合計 / 設問	27	38	819	884
1	14	8	210	232
2	1	27	28	
3	19	4	156	179
*			3	3
総計	61	50	1215	1326

現在「表示順」作成日時(昇順)の並び順で表示されています。

学院生の善心

調査した設問

- 設問 6
体の不自由な人、お年寄りなどの手助けをしたこと
- 設問 6 2
社会のために役立つ生き方をする

動機

- ・学院生がどのくらい社会貢献に対する意識があるのかわりたかったから。
- ・学院生の楽しさを調査したかったから

クロス集計

	設問6 体不自由な人、お年寄りなどの手助けをしたこと	設問6 2 社会のために役立つ生き方をする
設問6 体不自由な人、お年寄りなどの手助けをしたこと	10	25
設問6 2 社会のために役立つ生き方をする	41	20
総計	51	45

考察

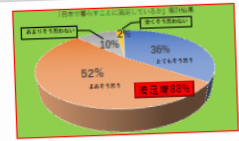
- ・学院生は全体的に人助けをしては良かったが社会貢献したいという意識はあまりなかった。

クロス集計

社会のために役立つ生き方をする	体の不自由な人、お年寄りなどの手助けをしたこと			総計
	何度もある	少しある	ほとんどない	
とてもそう思う	10	41	25	76
まあそう思う	25	108	102	235
あまりそう思わない	11	44	77	132
全くそう思わない	0	20	13	33
総計	46	213	217	476

設問 6 で少しあると答え、設問 6 2 でまあそう思うと答えた人と、設問 6 でほとんどないと答え、設問 6 2 まあそう思うと答えた人が多かった。

日本で暮らすことは
本当に快適なのか



→日本以外の国々、有みたいと思わないのか

国名	満足している	満足していない
アメリカ	10%	90%
中国	10%	90%
韓国	10%	90%
その他	10%	90%

日本で暮らして満足し、外国の生活にこだわらない学院生
→半分以上

→では日本人は自国が好きなのか

満足している	満足していない
92	161

日本で暮らすことに満足しているが、日本の未来は暗いと考えた学院生
→半分以上

総論

- 日本で暮らすことに満足している学院生が多い
- 外国ではなく日本での生活を望む者が多い
- 日本の将来は明るくないと考えている学院生が顕著である

なぜ日本の未来は暗いのか

- これから社会に出ていく世代にとって
- 超高齢社会
→高齢の住民、年金受給者層の上昇、人口減少
- 労働市場の縮小
→働き方改革
- 格差拡大
→低収入、物価上昇

→では日本人は自国が好きなのか

個数	↓日本で暮らすことに満足している				総計
	↓日本の未来は明るい とてもそう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない	
↓日本の未来は明るい とてもそう思う	9	2			11
まあそう思う	46	40	3	1	90
あまりそう思わない	92	161	23	1	277
全くそう思わない	24	46	21	7	98
総計	171	249	47	9	476

日本で暮らすことに満足していながら、日本の未来は暗いと考える学院生
→半分以上

特徴と工夫

- オリエンテーションビデオ教材(約17分)を作成し、初回の授業で受講するだけでなく、端末(PCおよび携帯端末)で繰り返し視聴できるようにした。
- データの参照先の例として、早稲田大学図書館の学術情報検索システム(新聞記事検索)、RESAS(内閣府地方創生推進室・地域経済分析システム)、各省庁の白書の利用方法を紹介した。

総合的な学習の時間
2学期の学習内容

2017年9月11日

高2「総合的な学習」のねらい

自ら問題を見つけ出し、その原因を探って論証し、他者と一緒に新しい解決策を作り出す。

課題発見・解決型
「思考プロセス」の学習

1学期と2学期の違い

	1学期	2学期
何のデータから問いをつくるのか	自分たち(学院)	他者(世の中)
誰が問いをつくるのか	個人	少人数グループ
どこまでプレゼンテーションをつくるのか	問い→仮説→論証まで	問い→仮説→論証→解決策
プレゼンテーションの時間	7分	15分

プレゼンテーションのポイント

現実にある問題を見つけ出し、その原因を探って、新しい解決策を作り出す。

テーマは「身近な異文化を知って多文化共生を目指す」
外国人住民・高齢者・身体障害者・貧困・被災者・犯罪被害者など

WINE 早稲田大学図書館 蔵書検索

RESAS 地域経済分析システム

首相官邸から各種白書にアプローチ

Search results for 'WINE' and 'RESAS'.

RESAS
Regional Economy, Society, Analysis System
地域経済分析システム

平成29年版
人権教育・啓発白書

「課題発見」「仮説」「論証」「解決策」という思考プロセスは、万国共通のもの

開発経済学
どうしたら速く上回るのか? 上回るために
どうしたら速く走れるのかな?

政治学
なんで紛争が生じているのだろう?

スポーツ科学
なんで今の予測システムは、こんな

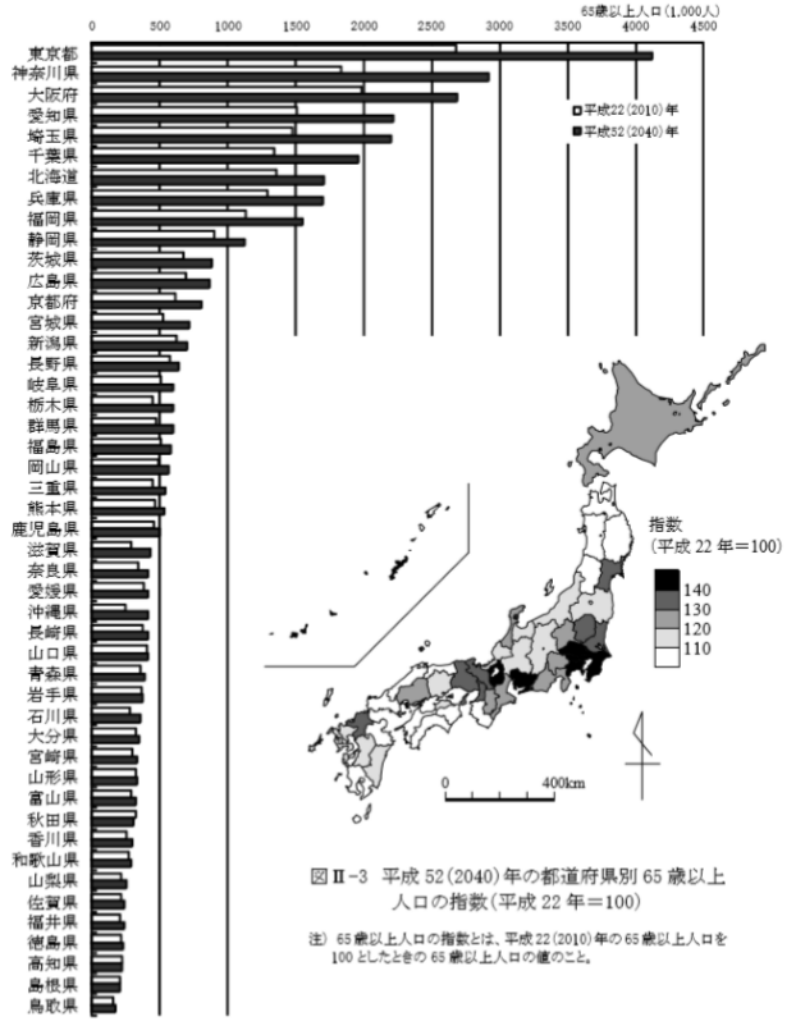
各授業において優秀と評価されたグループは、2017年11月11日（土）に開催された学芸発表会にて、高2のHRクラスを訪問し、代表グループ発表を行った。代表グループのテーマは以下の通りであった。

【全24クラス】ブラック化する運送業について／タバコ、上石神井／色覚異常者に見やすい信号機の提案／ひとり親家族の現状について／都会の人と地方の人／男子校出身者は、共学出身者に比べて、なぜ結婚に対する意識が低いのか／保育士と看護師にみる職業の男女比／キラキラネームについて／外国人というマイノリティ／喫煙問題／閉所恐怖症／異文化に関わる問題／児童施設について／男女格差／ネパールの異常事態／外国人にみる不法投棄／LGBT（性的少数者）を取り巻く環境／食物アレルギーを持つ人々が気軽に外食を楽しむために／貧困の連鎖／交通量におけるバリアフリー、ユニバーサルデザインについて／日本の移民、難民問題／交通違反の取り締まり／犯罪者の社会復帰／色覚異常をもつ人々にも優しい社会の提唱

資料F 代表グループの発表資料（抜粋）

	<p>2016.2.24毎日新聞記事</p> <p>仙台・2人死亡事故 「先天性色覚異常が原因だったと判明」 被害、公判で決まらへ</p> <p>＜仙台・2人死亡事故＞ 黄色信号のまま交差点に進入した乗用車とタクシーが衝突。千葉被告は、「先天性色覚異常があり赤点減の信号を黄色点減と見間違えた」と述べている。</p>
<p>2. 仮説 色覚異常者は信号を見誤る確率が高いのではないか</p>	<p>2. 仮説 色覚異常者は信号を見誤る確率が高いのではないか</p>

問3 次の資料から読み取ることができる現象とその問題点を整理して、1200字～2000字でまとめなさい。



平成22(2010)年と平成52(2040)年の都道府県別65歳以上人口

問1

表1は2015年3月の高校卒業生がどのような進路を選択したのかについて、都道府県別とその割合を示したものである。この表から進路別の進路の割合を求め、その割合を1つ増やせ、どのような割合であるのかを説明しようとして、その割合を解決するためにどのような方法が考えられるかについて1,200字以上2,000字以内で論じなさい。

【表1】2015年度高校卒業生の進路別割合(「学校基本調査」より)

都道府県	高校卒			大学等			専門学校			職業訓練		
	実数	割合(%)	割合(%)	実数	割合(%)	割合(%)	実数	割合(%)	割合(%)	実数	割合(%)	割合(%)
北海道	43,538	42.4	23.7	23.4	12,380	55.5	16.6	18.5	12,968	66.4	13.7	8.6
青森	12,547	44.0	14.5	32.6	6,899	55.1	17.3	29.7	10,632	45.1	18.3	29.5
岩手	11,788	42.7	20.9	30.6	17,607	44.3	19.6	29.4	10,632	45.1	18.3	29.5
宮城	19,825	48.8	16.5	23.9	17,607	44.3	19.6	29.4	10,632	45.1	18.3	29.5
秋田	8,889	44.4	17.3	29.7	17,607	44.3	19.6	29.4	10,632	45.1	18.3	29.5
山形	10,632	45.1	18.3	29.5	17,607	44.3	19.6	29.4	10,632	45.1	18.3	29.5
福島	17,607	44.3	19.6	29.4	17,607	44.3	19.6	29.4	10,632	45.1	18.3	29.5
茨城	25,564	49.7	18.9	21.6	17,607	44.3	19.6	29.4	10,632	45.1	18.3	29.5
栃木	17,481	52.0	17.5	21.8	17,481	52.0	17.5	21.8	10,632	45.1	18.3	29.5
群馬	17,441	52.1	19.1	19.6	17,441	52.1	19.1	19.6	10,632	45.1	18.3	29.5
埼玉	57,083	57.2	17.4	14.4	17,441	52.1	19.1	19.6	10,632	45.1	18.3	29.5
千葉	49,083	55.5	18.5	13.5	17,441	52.1	19.1	19.6	10,632	45.1	18.3	29.5
東京	100,638	66.8	11.9	6.6	17,441	52.1	19.1	19.6	10,632	45.1	18.3	29.5
神奈川	64,987	61.7	16.5	8.1	17,441	52.1	19.1	19.6	10,632	45.1	18.3	29.5
新潟	19,873	46.7	26.5	19.6	17,441	52.1	19.1	19.6	10,632	45.1	18.3	29.5
富山	9,560	52.0	17.8	22.2	17,441	52.1	19.1	19.6	10,632	45.1	18.3	29.5
石川	10,314	54.3	14.7	21.4	17,441	52.1	19.1	19.6	10,632	45.1	18.3	29.5
福井	7,503	55.3	14.4	23.8	17,441	52.1	19.1	19.6	10,632	45.1	18.3	29.5
山梨	8,589	57.6	17.0	17.3	17,441	52.1	19.1	19.6	10,632	45.1	18.3	29.5
長野	18,887	48.1	21.9	18.5	17,441	52.1	19.1	19.6	10,632	45.1	18.3	29.5
岐阜	18,477	56.1	13.8	23.6	17,441	52.1	19.1	19.6	10,632	45.1	18.3	29.5
静岡	32,404	53.9	16.3	22.0	17,441	52.1	19.1	19.6	10,632	45.1	18.3	29.5
愛知	63,138	58.8	13.1	18.7	17,441	52.1	19.1	19.6	10,632	45.1	18.3	29.5
三重	15,888	51.5	14.1	26.3	17,441	52.1	19.1	19.6	10,632	45.1	18.3	29.5
計	1,094,347	54.5	16.7	17.8								

問2 次の資料から読み取ることができる現象とその問題点を整理して、1200字～2000字でまとめなさい。

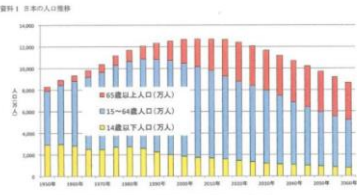
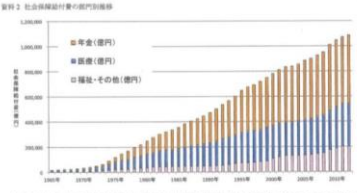


図1 2010年までの人口推移(単位:万人)。2015年以降は「日本の将来推計人口(平成24年)」を基に推定された人口推移を示している。



注) 「高齢」は65歳以上、「若年」は15歳以下、「中間」は15歳以上64歳未満、「その他」は65歳未満、「高齢」は65歳以上、「若年」は15歳以下、「中間」は15歳以上64歳未満、「その他」は65歳未満。

課題発見

価値判断

因果関係



1学期 個人プレゼン

比較を通じて、自分たちの特徴を発見する

自分たちに関するデータ（学院生生活意識基本調査）を作成し、他の高校生のデータと「比較」しながら、「自分たちの特徴」を見つける。
(ex.勉強面・生活面・価値観・将来像など)

その特徴の「意味」を考える

なぜその特徴に注目するのか。なぜその特徴に関心を抱いたのか。1分間程度でスピーチ。

その特徴の「原因」を考える

仮説を立てたり、クロス集計などを行って自分たちを分析することで、相関や因果関係を探る。

2学期 グループプレゼン

克服すべき社会的課題を発見する
(私たちはどのような問題に直面しているのか)

様々な人の立場に関するデータ（白書・RESAS・新聞記事・大学データベースなど）を用いて、「社会として克服すべき課題」を見つける。
(ex.過疎過密化・障がいの有無・性差・アレルギー・国籍・世代など)

課題の本質を見極める
(なぜこの問題に取り組むのか)

当事者・非当事者の立場を超えて、社会的課題として共有できるように、その問題の意味を考える。

課題の原因を探る
(なぜこのような問題が生じるのか)

「一人ひとりの意識」などに帰着させず、「構造的な要因」や「制度」に注目して、問題が生じてしまう原因を探る。

課題を克服するアイデアを考える
(どうすれば問題を解決できるか)

「ソーシャルビジネス」や「政策」など、幅広い手法で課題解決の方法を探る。

3学期 小論文作成

1・2学期の思考プロセスを意識して、個人で小論文を執筆する。

与えられた課題（大学・学部の小論文入試問題などを援用）に対して、1200字程度で小論文を執筆する。
(ex.都道府県別大学進学率・2050年の地域別高齢化率など)

高3年次 論文作成

自分が設定した課題について、論文を執筆する。

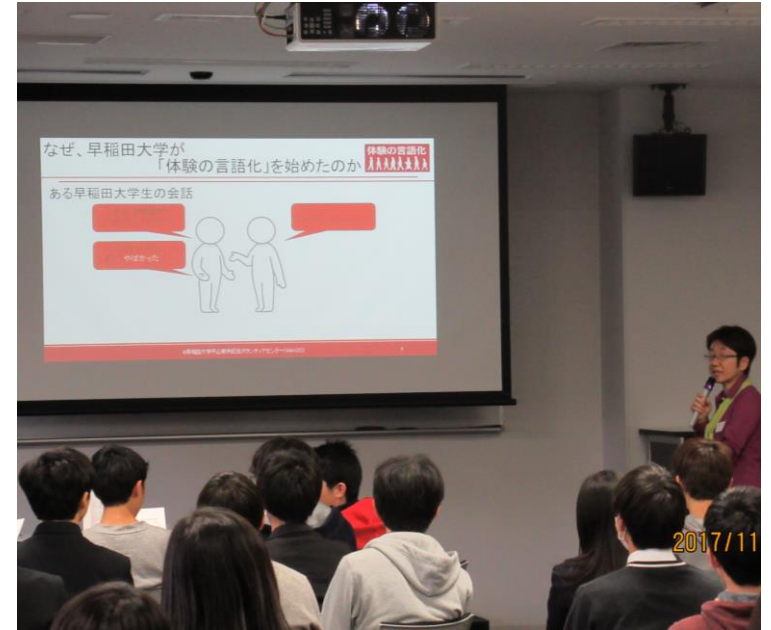
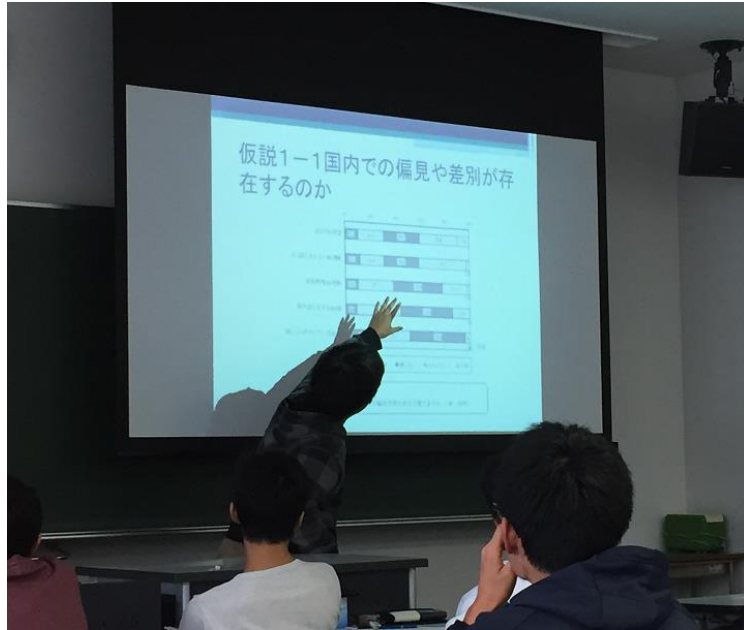
自分が設定したテーマで、1万2000字程度で論文を執筆する。1人の教員が10名の生徒を担当する。

GOAL
生徒一人ひとりが、それぞれ自分自身のテーマを持って、早稲田大学の13学部へ進学。

- ・課題発見・課題解決の思考プロセス
- ・仮説実証の手続き
- ・論文の意義と書き方（文献や引用方法）
- ・様々なデータベースへのアクセス方法
- ・エクセルなどを用いたデータの加工方法
- ・合理的なグループワーク
- ・効果的なプレゼンテーション方法

課題解決





成果の共有と展開